

特別講演会

【医学 x 工学研究の展望～医療機器開発を身近に見た自身の経験より～】

主催 日本材料学会北陸信越支部
期日 令和4年12月16日（金）13:00～14:30
会場 オンライン（Teams）および対面の併催
対面の会場：富山大学総合教育研究棟
工学系（G zone G16）28 番教室
〒930-8555 富山市五福 3190

(<https://www.u-toyama.ac.jp/access/gofuku/index.html#gofukuCampus>)

要 旨

私は昨年度まで本学医学部整形外科に10年以上、技術職員をしていた。そこでは、基礎研究から始まり、医療機器開発に発展した研究を身近に見てきた。2016年から始まり、2022年3月に厚生労働省へ医療機器承認申請を行い、長く続いた研究プロジェクトが終了した。承認を待ち、製品として医療現場に登場する日も遠くない。医療機器と一言でいっても、人体へのリスクの程度で薬機法によりクラスⅠ～Ⅳに分類されている。本学では初となる最も人体へのリスクが高く、承認が難しいクラスⅣの「高度管理医療機器」開発への挑戦であった。癌患者の腫瘍切除後の再建を目的とする3Dプリンターを用いたカスタムメイドのインプラントである。

研究を成し遂げるための医師の涙ぐましい努力と苦悩、そしてチーム連携の重要性を目の当たりにした。単に、研究の内容のみならず多くの苦労があった。医療機器開発には避けて通れない相談・審査機関である医薬品医療機器総合機構(PMDA)との連携、終りの見えない膨大な書類ワークと追われる締め切り、桁を疑いたくなるような大きな予算の動きなど、心身を消耗して臨んだまさにチーム一体となり成し遂げた功績である。

本講演では、このプロジェクトにおいて自身が貢献してきたことを紹介する。また、医学 x 工学研究の工学の役割と、異分野融合研究の重要性および技術職員から助教への職種移行による自身が考える社会的使命について述べる。

講師 富山大学工学部 助教 岩崎真実 氏

申込み 令和4年12月9日（金）までに以下の参加申込書を増田 (masuda@eng.u-toyama.ac.jp) までメールにてお送りください

参加費 無料

問合せ先 富山大学学術研究部工学系 増田健一

Tel & Fax : 076(445)6772

E-mail : masuda@eng.u-toyama.ac.jp

<参加申込書>

お申し込みいただきました方は、確認事項に同意されたものといたします。

確認事項；

1. 講演を、撮影等（録音、録画および画面キャプチャなど）で記録しないこと。
2. オンラインでご参加の場合、申し込みした者以外は聴講しないこと。講演を、他の聴講者に同時配信しないこと。
3. 対面でご参加の場合、マスクを着用すること。

お名前；

ご所属；

連絡先メール；

連絡先電話番号（当日連絡が取れる番号）；

参加方法； 対面 or オンライン（どちらか削除願います）
